

砂防

ふくしま

第3号

福島県砂防協会機関誌



砂防部長賞 受賞

只見町立明和小学校6年(当時)

五十嵐 真くん

平成8年度「土砂災害防止」に関するポスター部門

◆土砂災害防止月間

6月1日～6月30日

うつくしま、ふくしま。

安全・安心・豊かな県土づくり

【みんなで防ごう土砂災害】

CONTENTS

- 平成8年度「土砂災害防止」に関する入賞作品(作文部門)……2
- 平成9年度砂防関係事業概要……3
- 砂防事業紹介……4
- 平成7年度発生災 砂防災害関連事業(大塩川)……6
- 平成8年度砂防協会活動報告……7
- 砂防法制定100年記念事業について……7

平成8年度「土砂災害防止」に関する作文部門



砂防部長賞 受賞

いわき市立湯本第一小学校2年(当時)

古川 雅人くん

課題「みんなで防ごう土砂災害」
ぼくたちの、住んでいるだん地は、高台に
あります。もちろん、い前は、山でした。で
すから、がけや土手は、いたる所にあります。
ぼくが、二才の夏に、近くで、土砂くずれ
がありました。ぼくの家は、すぐ、がけのそ
ばにあり、大雨や集中ごう雨があると、とて
も、心ばいです。今でも、は、きり、思い出
します。空が、みるみるうちに、ま、黒くな
ったかと思うと、風がきき出しました。その
時、ぼくは、大きなりゅうが、空にのぼ、て
行くのが、見えました。ぼくと父にだけ、見
えたようです。その後、雷きともな、て、
大雨が集中てきに、二時間くらい、ふりまし
た。長いく時間でした。ぼくは、ぼうぜん
と、空を見上げていました。父は、心ばいそ
うに、家の前のがけ下を、のぞきこんでいま
した。母は、つくろいものをしていました。
や、と、雨が上がり、空の向こうには、七色
のにじが、かかったというのに、家から数メ

ートルという所で、土砂くずれがおこりまし
た。父たちと、近くまで、見に行くと、フェ
ンスをこえて、道ろまで、おとし穴のように
えぐれていました。ぼくは、はじめに見たの
で、とても、こわかったです。
ぼくは、わか、たのです。「さい近、人間
が、かってなごしばかりしているから、神様
が、怒、たんだな」と。「自ぜんを、あまく
見るとこわいよ」という、けいこくかもしれ
ません。
また、新しい道ろが、開通すると、かなら
ず、両わきのがけは、コンクリートでかため
たり、草のたねをまいて、緑を育てて、土砂
くずれを防ごうとしています。にも、かかわ
らず、大雨がふると、いともかんたんに、く
ずれおちて、おぼけのようながけに、ビニ
ルシートが、かけられてはいるすがたを、よく
見かけます。「ぞお、と」とするくらい、こ
わい光けいです。
「自ぜんがよい手だと、どうしようもない

のかなあ」と、考えてしまいますが、ぼくは
「きつこある」と思っています。自ぜんと人間の
たりけつは、この先、何年も何十年も、永遠
にづくことでしょう。この「知恵くらべ」
は、生きものの、とうとしいのちが、かかっ
ている、しんけんしょうぶです。ですから、
ぼくたちのような、小学生こそ、未来の大き
な知力となるのですから、二生けんめい勉強
して、頭をやあらかくして、自ぜんとたたか
おうと思えます。うちゅうの中の、た、た、
つの、青い星だからです。学校や、緑や、海
や、ぼくの大好きなものか、いつぱいつま、
ているボール、ぼくの大事は空ものだから、
「いのちをは、て、まもりたい」という、気
持ちです。一人より十人、百人、みんなの知
恵を出し合、たら、き、と、防げるとかくし
んしてします。

平成9年度砂防関係事業概要

1. 事業概要

平成9年度は、第9次治水事業五箇年計画の初年度であり、本県としての基本目標である「うつくしま、ふくしま。川の想像」その4つの姿の実現に向けて、砂防関係事業については、引き続き、総合的・計画的に施設の整備を図るとともに、土砂災害に対する防災体制づくりを推進します。

事業展開に当たっては、重点投資や効率的な整備により、土砂災害危険箇所の一層の整備促進を図るとともに、自然環境との調和、施設の維持・管理の強化等、県民のニーズに的確に対応し、憩いとやすらぎの空間創出に努めます。

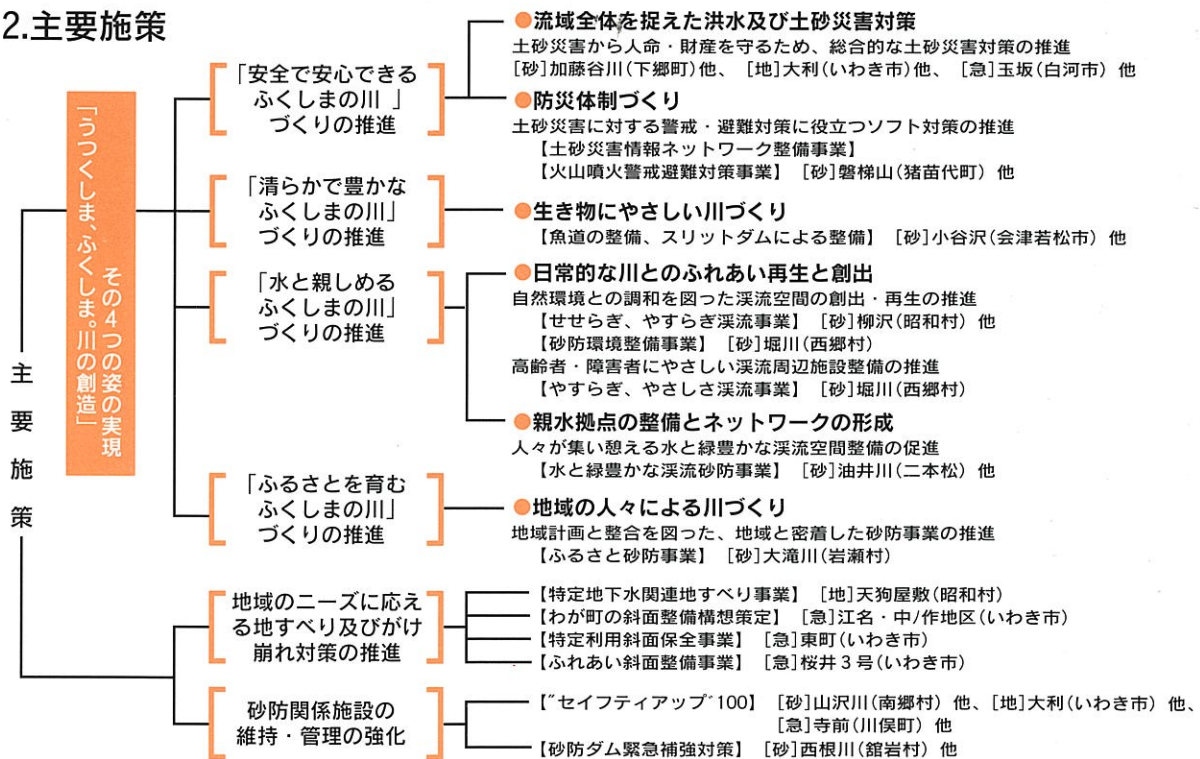
また、今年度は平成10年度を初年度とする第4次急傾斜地崩壊対策事業五箇年計画策定の年でもあり、地元市町村と十分な連携を図りながら、本計画を策定します。

●土砂災害危険箇所整備状況

◎整備率は県要対策箇所ベース。地すべり危険箇所の県所管箇所数はH8年度末から159箇所。

土砂災害危険箇所	箇所数	県所管箇所数	県要対策箇所数	H7年度末		H8年度末		H9年度末見込み		全国整備率(H6末)
				箇所数	整備率	箇所数	整備率	箇所数	整備率	
土石流危険渓流	1,367	1,356	1,356	202	14.9%	212	15.6%	222	16.4%	約20%
地すべり危険箇所	160	159	159	38	23.8%	38	23.9%	43	27.0%	約20%
急傾斜地崩壊危険箇所	1,118	1,118	883	228	25.8%	235	26.6%	244	27.6%	約25%

2. 主要施策



3. 平成9年度当初予算(県予算)

区分	事業名	事業名(千円)	箇所数	区分	事業名	事業名(千円)	箇所数
補 一 般	砂防事業(通常、火山、環境、修繕)	7,878,927	137	県	砂防	354,684	29
	地すべり対策事業	1,320,000	23		地すべり	4,000	1
	急傾斜地対策事業	1,796,000	44		急傾斜	207,444	15
	雪崩対策事業	180,000	4		計	566,128	45
	計	11,174,927	208		調査費(砂防、地すべり、急傾)	130,000	—
助 そ の 他	緊急砂防等災害関連費	300,000	—	単	維持管理費(砂防、地すべり、急傾)	131,423	—
	国直轄砂防事業費負担金	545,000	—		その他	73,597	1
	災害関連地域防災がけ崩れ対策事業費	6,300	—		県単事業計	901,148	46
	計	851,300	—		砂防事業計	12,927,375千円	
補助事業計							

柳沢川（昭和村）～せせらぎ、やすらぎ溪流事業（県単独事業）～

せせらぎ・やすらぎ溪流事業とは

砂防の施設が既に整備されている箇所において、自然環境に調和した親水護岸や生態系に配慮した魚道の設置を行う等して、溪流の本来持つ“せせらぎ”の復元と地域住民へのやすらぎの場を提供する事業です。平成9年度は、昭和村の柳沢川、滝根町の夏井川、いわき市の入間川、郡山市の笹原川で実施を予定しています。

柳沢川の事業紹介

本箇所は、村の保健・医療福祉センターに隣接することから、センターを訪れた人々や周辺の住民に潤いと安らぎの場を提供することを目的として、階段工や落差工に魚道ブロックを設置している。



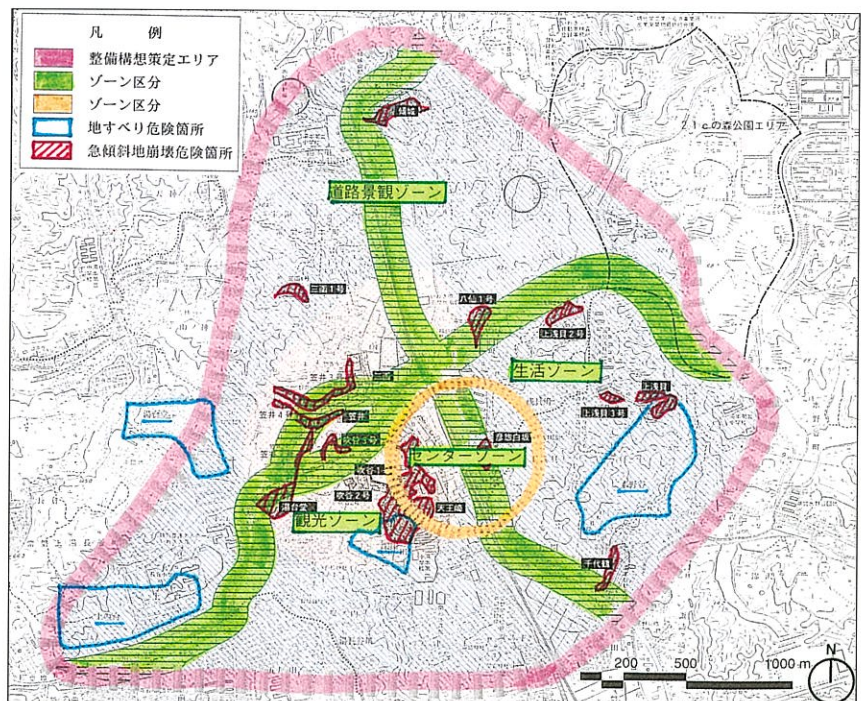
魚道ブロック

常磐湯本地区（いわき市）～わが町の斜面整備構想策定～

安全で美しいまちづくりを推進するためには、危険箇所の整備を個々に実施するのではなく、斜面とまちづくりの特性を捉え、斜面環境・景観の保全、創出、及び斜面空間の利活用を踏まえた斜面整備のあり方を策定し、急傾斜地崩壊対策事業等を推進する必要があります。

常磐湯本地区は、急傾斜地崩壊危険箇所等が集中している地区ですが、古くから温泉街を中心とした観光地として栄えており、斜面とまちづくりは深く関わっています。

平成7年度から8年度にかけて地元有識者や学識経験者等をメンバーとした協議会を組織し「わが町の斜面整備構想」を策定しました。



整備方針区分図

大塩川(北塩原村)～平成7年発生災 砂防災害関連事業～

災害の原因

平成7年8月2日から4日にかけて、東北地方南部に停滞した前線が活発化し、会津西北部を中心に豪雨に見舞われました。2日午前から4日午後まで降り続いた雨は喜多方市で、総雨量273mm、最大日雨量226mm、最大時間雨量25mmを記録。このため、大塩川上流部では、流路の屈曲及び流下能力の不足により河岸の決壊やがけ崩れ等が発生し、床下浸水、停電、道路寸断等の甚大な被害をもたらしました。

出水状況



被災状況



全体計画概要

復旧延長	L=2,654m	全体事業費	C=2,531百万
護岸工	A=26,072m ²	災害費	1,291百万
落差工	N=20基	関連費	1,227百万
帯工	N=36基	別途(橋梁)費	13百万
護床工	N=3,435個		
橋梁工	N=1基		

砂防災害関連事業

災害の原因が流路の屈曲と流下能力の不足であり、被害箇所を元に戻す原形復旧のみでは、再度災害を受ける可能性がありました。

このため、被害・未災箇所を含む一連の区域について一定の計画のもとに、流路の屈曲は正・河積断面の拡大・縦断勾配の是正・河床の低下防止を図る、「災害関連事業」により、復旧効果のより一層の増大を目指すこととしました。本事業は、平成8年5月31日に着手し平成9年度中の完成をめざして、現在復旧工事が進められています。

復旧状況



“今もよみがえるあの恐ろしかった一夜”

～牙をむく濁流に 河岸決壊！家屋が全半壊に！！～



鈴木 直利さん
北塩原村大字大塩字大塩

“合羽を着ても、シャワーを浴びたように雨が体に入ってきてしまう”それくらい記憶にないドシャ降りでした。午後9時か10時頃ですが、私はたまたま上流の方へ見回りに行ったのですが、その時、すぐ近くで一瞬にがけが崩れて、その風圧を体感じました。電話は不通になるし、停電になるし、国道も寸断して不安でしょうがありませんでした。夜に見た黒い川の水は不気味だったし、石が動くあの音は今も耳から離れません。現在、復旧工事が行われていて、これでなんとか安心できると思いますよ。



五十嵐 憲雄さん
北塩原村大字大塩字長坂

ここで、生まれて40数年、あのような水が出たというのは初めて。最初川の水が増えているなという感じでした。それが30分もしたら一気に増えてきたんです。夜の10時過ぎに家族は避難させました。水の勢いは岩と流木が一緒になって並みではなかった。川岸は削られ、うちの玄関の中まで泥水が入ってきて、私は消防団や役場の人たちと土のうを積んで我が家を守りました。水が引いてきたのは夜の2時頃。翌日、川を見たら、以前の面影は全くありませんでしたね。



鈴木 八郎さん
北塩原村大字大塩
字下六朗屋敷

私は消防団の大塩分団長をしています。あの時は午前中から夜中の2時頃までひどい降りが続いて、警戒態勢をしていたんですが、あちこち見回りに行くのと石の混じった泥水が道路の上を勢い良く流れていくんですよ。床下浸水している家で土のう積みをしたり。20軒の家を避難誘導したり大変でした。近くの山で斜面が割れているのが見つかり、この辺のほとんどの山が抜けてくるのではないかと不安にもなりました。でもみんなの徹底した防災活動により、負傷者がでなかったのが、不幸中の幸いでした。

平成8年度福島県砂防協会活動報告

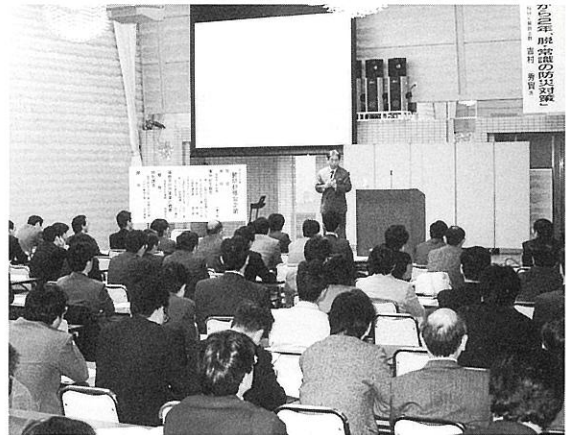
- (1) 全国治水砂防協会第58回通常総会
平成8年5月15日 東京都 砂防会館別館
- (2) 全国治水大会総会
平成8年5月29日～6月1日 滋賀県大津市
- (3) 土砂災害防止月間推進の集い
平成8年6月3日～4日 兵庫県神戸市
- (4) 東北地方公共事業拡大推進総決起大会
平成8年7月19日 宮城県仙台市
- (5) 全国治水砂防協会東北地区協議会
①第45回通常総会
平成8年7月25日～26日 青森県野辺地町
②臨時総会
平成9年1月23日 東京都
- (6) 砂防協会 現地調査
平成9年1月8日～10日 広島県、大阪府
- (7) 砂防協会研修会
平成9年2月19日 福島県グリーンパレス

現地調査報告会及び記念講演会が開催される!!

平成8年度の砂防協会の事業として、平成9年1月8日から10日までの日程で現地調査が実施され、市町村の5名の職員が2班に分かれ、大阪府と広島県の自然景観に配慮した砂防事業や住民の事業への参加について調査しました。

2月19日には、福島市の福島グリーンパレスにおいて、約150名が参加して、協会主催の研修会が開かれ、現地調査の成果が発表されました。また、当日はNHK解説主幹の吉村秀實氏の「阪神・淡路大震災から2年 脱・常識の防災対策」と題する記念講演もあり、「まだ、記憶に新しい大震災の貴重な体験が聞け、日頃からの危機管理の大切さを痛感した。」等の感想が寄せられました。

(詳細については、「平成8年度砂防協会研修会報告書」をご覧ください。)



吉村秀實氏の記念講演

砂防法制定100周年記念事業について

平成8年が砂防法制定100周年にあたることから、この機会に広く事業をPRするため、各地で様々なイベントが実施されました。



砂まつり '96 in 荒川

事業名	主催者	開催場所	開催時期
根子屋川「なかよし公園」開演式	棚倉町	棚倉町「なかよし公園」	H8.4.26
名乗川筋通常砂防工事完成記念植樹祭	石川町	石川町谷沢地区	H8.6.22
砂まつり '96 in 荒川	福島市建設省福島工事事務所 県北建設事務所 県砂防課	福島市荒川河川敷 水林公園・「四季の里」	H8.6.11
地震 火山 津波 —自然災害を科学する—	福島県	会津若松市 福島県立博物館	H8.7.20～ H8.9.16
加藤谷川ふるさと 溪流まつり	下郷町・田島町	下郷町養鱒公園	H8.8.8
大滝川砂防ダム閉塞式	岩瀬村 県中建設事務所	岩瀬村 大滝川砂防ダム	H8.10.9
ふれあい溪流まつり	県東北建設事務所 二本松市	二本松市 油井川 「ささや親水公園」	H8.10.12
ふくしま建設フェア (土砂流模型実験コーナー)	福島県建設技術協会	あづま総合運動公園	H8.10.19 ～20

平成7年度全建賞受賞(～福島県県南建設事務所～)

堀川(西郷村)砂防環境整備整備事業

堀川は自然豊かな溪流であり、その周辺には「太陽の国」等の社会福祉施設が隣接しています。

施設整備にあたっては、地域の声を積極的に取り入れ、自然環境に配慮するとともに、子供や障害者・高齢者も安心して溪流に親しむことができるよう、安全で潤いのある整備を図っていることが高く評価され全建賞(※)を受賞しました。

また、溪流周辺整備のため、「地方特定河川等環境整備事業」や「やすらぎ、やさしさ溪流事業(県単)」を積極的に取り入れ、一体的整備も行っています。

すでに整備の完了した区間は、地元住民はもちろんのこと県内外の多くの人々に利用されています。

※全建賞とは…社団法人全日本建設技術協会が所属する機関で実施した事業の中から、建設技術の発展に寄与するため毎年優秀な建設事業を選考し、これを実施した機関を表彰するものです。



編集後記

今年度も早いもので2ヵ月が過ぎ、窓の外を見ると緑の葉をつけた樹木の枝が心地よく揺れており、慌ただしい毎日の中にも、ちょっぴり心にゆとりを感じさせてくれる今日この頃です。

昨年度は、砂防法制定100年を記念して、建設省福島工事事務所、県、関係市町村の協力のもと県内各地で様々なイベント等を開催し、砂防事業のPRをすることができました。

最近、全国各地で土砂災害が発生し、TV、新聞等でも「土石流」、「がけ崩れ」など土砂災害に関する記事を目にする機会が多くなっています。

このような土砂災害を未然に防止するため、6月は「土砂災害防止月間」となっています。土砂災害を未然に防止するためには、施設整備の促進を図ることはもちろんですが、地域住民の方々の“自分の身は自分で守る”自発的防止活動が重要であることをあらためて痛感しています。

梅雨時期をむかえ、土砂災害が発生しやすい季節となり、会員の皆様は土砂災害防止のため多忙な毎日をお過ごしと思いますが、健康でご活躍されるよう期待します。